

1 本年度の重点教育目標

よさに気付く 一歩前へ ～自分のよさに気付く 相手のよさを認め 学びに生かす～

2 本年度の取組の重点

(1)「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育課程の編成、実施、評価、改善 (2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導の充実  
 (3)豊かな心を育む道徳教育の推進 (4)自主的、実践的な態度を育て、よりよい人間関係を築く特別活動の推進  
 (5)児童理解に基づき、自発的、自立的な態度を育む生徒指導の推進 (6)一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実  
 (7)生命を尊重し、自ら心身を鍛える健康安全教育の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	理由 ●改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
教育課程	子どもの視点に立ち、自己肯定感や資質・能力をバランスよく育む教育課程の編成・実施・評価・改善(カリキュラム・マネジメント)を行うことができたか。	a	負担に配慮した適切な時程管理に加え、地域や他校種等との連携・交流が継続し、教育活動が充実している。	A	A	
学習指導	「自分の考えをもち、伝え合おうとする態度」を育成することができたか。	a	国語科の「話す・聞く」研修の成果が、日々の学級経営や授業実践に確実に反映されている。	A	A	
	個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、楽しく「わかる・できる」実感と自己効力感を育むことができたか。	a	「個」と「協働」の視点での授業改善が組織的に進み、児童が「わかった」と実感できる場面や、意欲の向上が見取れた。	A	A	
道徳教育	道徳科を中心に教育活動全体を通じて道徳性を育成することができたか。	a	本校の「道徳教育の目指す子供像」を意識した意図的・計画的取組を進めている。	A	A	
特別活動	学級や学校の生活をよりよくする学級会の充実ができたか。	a	「自己有用感」「自己存在感」を高める自己評価・相互評価を設定し取り組んだ。	A	A	
	所属感・連帯感を深め、公共の精神を養う学校行事の工夫ができたか。	a	「協力」するよさの実感を狙い、教職員の指導により工夫された活動が実践された。	A	A	
生徒指導	生徒指導の機能を生かし、支持的風土と規律ある学級経営に努めることができたか。	a	自己有用感・自己肯定感を高め自信と意欲を高める場や機会を意図的に設定した。	A	A	・人間性を育む小学生の頃から物事を見極める力を習慣的に身に付ける指導を学校と家庭そして地域で継続したい。 ・親ですらメディアリテラシーが備わっていない方もいます。児童への指導はさらに難しいかもしれませんが応援します。ただ批判的否定的に物事を捉える習性が過剰にならないように指導の加減が難しそう。
	いじめ、不登校等の未然防止のための教育活動を計画的に取り組むことができたか。	a	「いじめ防止基本方針」に則ったいじめ未然防止、早期発見、早期対応に努めた。	A	A	
	基本的で望ましい生活習慣の定着を図ることができたか。	b	●メディアリテラシーについて、学校での指導及び家庭への呼びかけを継続する。	A	A	
特別支援教育	教職員の共通理解と協力体制のもと、個性等を伸ばし、自立と社会性を培う特別支援教育を推進することができたか。	a	特別支援コーディネーターを中心に、1人1人の教育的ニーズに応じた特別支援教育体制を推し進めた。	A	A	
健康安全教育	いじめ・不登校コーディネーターを軸とした児童に寄り添った対策を行うことができたか。	a	不登校支援コーディネーターがハブとなり、担任やスクールカウンセラー等との綿密な情報共有や連携を主導し、組織的な支援が機能した。	A	A	
	防災・安全・保健教育を推進し、自ら命を守る意識を育むことができたか。	a	避難訓練、引き渡し訓練、交通安全教室、薬物乱用防止教室等、計画的に防災・安全・保健教育を実施した。	A	A	
	児童が進んで運動に親しみ、体力や運動能力の向上に取り組める環境整備や指導に努めたか。	b	●新体力テストの結果分析を基に、体力や運動能力向上に向けた取組を早い時期に策定し、全校で取り組む。	A	A	
業務改善	教育の質的向上と効率化の両立を目指した業務改善を進めることができたか。	b	●構造的な多忙化解消へ休憩確保や分担を見直す。現場の声を計画に反映し、前例を排した大胆な業務削減とルール再構築を実行する。	A	A	・ご苦労が多いことと察しますが、子どもにとって先生は最高のお手本です。 ・児童のみならず、児童を支える職員への配慮も大切にされていて良いです。メンタルヘルスケアは大切です。そこで生まれたゆとりが児童へも良い環境づくりにつながると思います。
家庭や地域との連携・協働	目標・ビジョンをコミュニティ・スクール、家庭、地域と共有し、家庭・地域の願いを反映し、「共に育てる教育」を推進しようと努めていたか。	a	保護者、地域との「共育」の実現に向け、学校運営協議会や各町内会・他団体等との連携を進めた。	A	A	・様々な工夫を重ね、ニーズに合った連携を深めていきたいと思えます。 ・地域に根ざした活動を見ることができました。 ・地域の方から学ぶ、一緒に学ぶという取組を意識的に取り入れてくださり、地域の活性化にもつながったと思えます。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。